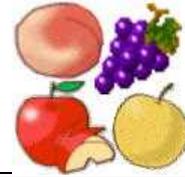


# 平成29年度 果樹情報 第2号

(平成29年4月14日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (4月上旬：果樹研究所)

4月1～2半旬の平均気温は、1半旬が7.2℃で平年より1.2℃低く、2半旬が12.8℃で平年より2.7℃高く経過しました。

この期間の降水量は0.5mmで平年の2%でした。

## 2 発育状況 (果樹研究所)

(1) ももの開花は、「あかつき」「ゆうぞら」ともに近日中の見込みです。

(2) なしの発芽は、「幸水」が4月5日で平年より3日遅く、「豊水」が4月3日で平年より3日遅くなりました。

(3) りんごの発芽は、「つがる」「ふじ」ともに4月2日でそれぞれ平年より7日および5日遅くなりました。また展葉は、「つがる」が4月9日で平年より1日早く、「ふじ」が4月8日で平年並でした。

(4) おうとうの発芽は、「佐藤錦」が4月4日で平年より4日遅くなりました。

(5) ぶどうの発芽は、まだ確認されていません。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	3月29日	3月25日	3月19日	—	—	—
	ゆうぞら	3月29日	3月26日	3月20日	—	—	—
なし	幸水	4月5日	4月2日	3月28日	未	4月15日	4月6日
	豊水	4月3日	3月31日	3月24日	未	4月11日	4月3日
りんご	つがる	4月2日	3月26日	3月21日	4月9日	4月10日	4月2日
	ふじ	4月2日	3月28日	3月21日	4月8日	4月8日	3月30日
おうとう	佐藤錦	4月4日	3月31日	3月24日	—	—	—
ぶどう	巨峰	未	4月19日	4月8日	未	4月25日	4月16日

注) 平年は1986～2015年の平均値 (おうとうは1994～2015年、ぶどうは1988～2015年)。

## 3 開花予測

今後の気温が平年並に経過した場合、各樹種の開花始は、もも「あかつき」が4月16日で平年より2日遅く、なし「幸水」が4月22日で平年より1日遅く、りんご「ふじ」が4月27日で平年より1日遅いと予測されます。

開花期は直前の気温に左右されやすいので、今後の気象の推移に注意が必要です。

表2 開花予測日 [予測方法：発育速度 (DVR) モデルによる発育予測]

樹種	品種	開花始		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
もも	あかつき	4月5日	4月14日	4月16日	4月15日	4月17日
なし	幸水	4月13日	4月21日	4月22日	4月19日	4月24日
りんご	ふじ	4月18日	4月26日	4月27日	4月24日	5月1日

注) 開花始の平年は1986～2015年の平均値。

#### 4 栽培上の留意点

##### (1) 防霜対策

生育が進むにつれて耐凍性が低下し凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。また、生育は最近の気温上昇に伴い、各樹種ともにほぼ平年並に戻りつつあります。1か月予報（4/8～5/7）によれば、今後気温が平年並または高く推移する確率が高いと予想されているため、開花予測（表2）を考慮して、生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施しましょう。

（各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照）

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（平成29年3月22日）」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/207836.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため下草は4月上旬以降をめぐりに5cm程度に刈り込みましょう。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。

##### (2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数としましょう。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用します。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所（冷蔵庫が望ましい）に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぎましょう。

#### 5 病虫害防除上の留意点

##### (1) 病害

###### ア りんご腐らん病

伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、塗布剤を塗りましょう。なお、伐採した被害枝幹や削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分するほか、展葉初期の防除も徹底しましょう。

###### イ りんご黒星病

前年に黒星病の発生がみられた場合は、展葉初期の防除を徹底しましょう。

###### ウ ももせん孔細菌病

果樹研究所内では、本病の重要な第一次伝染源である春型枝病斑の発生が4月10日に初めて確認されました。園内を巡回し、1年枝皮部の黒変や新梢葉の生育不良（図1）を目安に、発病が疑われる枝は見つけ次第せん除しましょう。

また、開花直前が重要な防除時期となるため、薬剤散布を徹底し、感染防止を図りましょう。



図1 ももせん孔細菌病の春型枝病斑を確認するポイント

エ なし黒星病

最も重要な防除時期は開花期前後であるため、開花直前に本病に有効なDMI剤（EBI剤）のいずれかを必ず散布しましょう。また、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけ次第除去し、伝染源密度低下に努めましょう。

(2) 虫害

ア 主要害虫の防除時期

果樹研究所内における主要害虫の誘殺時期は平年並です。ミツバチやマメコバチなどを導入する場合には、訪花昆虫に影響の強い有機リン系殺虫剤等の散布時期に十分注意しましょう。

イ モモハモグリガ

フェロモントラップによる初誘殺は4月9日でした。今後、気温が平年並に推移した場合、誘殺盛期は4月23日（平年に比べ2日早い）と予測されます。本種による突発的な被害を回避するため、落花10日後の防除を確実に行いましょう。その際、アブラムシ類の防除を兼ねてネオニコチノイド剤を散布しましょう。

ウ リンゴコカクモンハマキ（りんご、なし）

昨年、本種の発生が多かった園や、現在、花や新葉に食害が見られる園では、落花直後にIGR剤またはBT剤を散布しましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定

（演算方法は三角法 平成29年4月9日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月21日	4月27日	5月13日	5月27日
平年並	4月23日	4月30日	5月21日	6月4日
2℃低い	4月27日	5月4日	5月31日	6月15日

起算日：3月1日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>